

独創性と王道のサウンドを凝縮したエフェクター

試奏:栗原 務、編集部

エレクトロ・ハーモニクスやロジャー・メイヤーなど、マニアックでいて、ロックのツボを突いたサウンドで知られるエフェクターを手掛ける日本エレクトロ・ハーモニクス。ギタリストを刺激してくれた2010年の多彩なニュー・モデル達をチェックしてみた!

エレクトロ・ハーモニクス Germanium 4 Big Muff ¥20,790



使ってみると、なかなかユニーク。絞っていくと動作がだんだん不安定になり、ヴィンテージ・ファズっぽい壊れたラジオのようなサウンドを演出できた。歪みの質をメロウにするかアグレッシブにするかを調整

できるBIASコントロールも、個性ある音作りを支えてくれる。

整できるBIASコントロールも、個性ある音作りを支えてくれる。



▲このVOLTSつまみで、他の歪み系にはないサウンドを作り出せる

《試奏!》オーバードライブとディストーションを搭載し、それぞれを独立、あるいは組み合わせて使うことで、ウォームなトーンから過激なファズまで様々な歪みを作り出せるモデル。



エレクトロ・ハーモニクス Freeze ¥20,790



▲効果をフェード・イン&アウトさせたり、持続音を次々切り替えたりなどを選べる

《試奏!》コード/単音に関わらず音を無限にサスティンできるという夢のようなエフェクターだ。

使ってみると、ストリングスのようにコードを白玉で鳴らし続けることもでき、またソロの最後にフィードバック的に単音で伸ばすというユニークな効果も得られた。フリーズでコードを鳴らし、それ

をバックにソロを弾くなんてこともOKだ。ミニ・スイッチで、FAST/SLOW/LATCHの3モードを切り替えられ、フット・スイッチを踏んだ時だけフリーズさせたり、スイッチを踏むごとにフリーズのサウンドを切り替えたりと、目的に合わせて効果を変えられるのも便利。ライブ向きの1台と言えるだろう。

エレクトロ・ハーモニクス Neo Clone ¥12,600



《試奏!》伝説のコーラス、スモール・クローンのサウンドを再現したのが、このネオ・クローン。回路に、スモール・クローンと同じくBBD素子を使った完全アナログ仕様だ。

その音は、ひとことで言えば“ドリーミー”。アナログ・コーラスならではのあたたかみのあるトーンをベースとしたクセのないモジュレーションは、昨今のデジタル・エフェクターにはない味わい深さを感じる。コントロールは、モジュレーションのスピードを調整するRATEと深さを切り替えるDEPTHスイッチのみとシンプルなので取り扱っても簡単。DEPTHスイッチをオンに



し、RATEのスピードを上げれば、エフェクティブなヴィブラート・サウンドも作り出せた。



▲コーラスの深さをワン・タッチで切り替えられる

エレクトロ・ハーモニクス 44 Magnum ¥26,250



▲アンプ・ヘッドが手のひらに収まってしまった!



maker's voice

最新のテクノロジーとヴィンテージの融合です

ゲルマニウム4ビッグ・マフは1台にオーバードライブとディストーションを内蔵。ゲルマニウム・トランジスタを4個使用しています。激しいサウンドが特長です。ネオ・クローンは、カート・コバーンも使用するスモール・クローンと同じ回路にBBDチップを搭載し、同等のサウンドです。フリーズは今までにない新しいエフェクトです。弾いた音をフリーズ(鳴ったままに固定)し、

さらにプレイを重ねられます。新しいプレイを生み出す楽しみもあります。44マグナムはこんなに小さくても立派なアンプ・ヘッドです。もう大きなヘッドにさようならです。デラックス・メモリー・マンは、以前の鉄板折り曲げ筐体から小さなダイキャストにモデル・チェンジしました。サウンドは同じなのでオール・モデルのファンにも安心してお使いいただけます。

エレクトロ・ハーモニクス Deluxe Memory Man ¥68,250



レイのピッチ変化は、アナログならではの気持ちよさがある。発振ギリギリまで上げたフィードバックとの併用から生まれる過激なサウンドも、おもしろいだろう。

また、このDeluxe Memory Manの弟モデルが多く発表されているのも特徴だ。ラインナップは、Deluxe Memory Boy(¥33,600)、Memory Boy(¥20,790)、Memory Toy(¥15,750)で、それぞれに搭載されている機能などは異なるが、どれも良質なアナログ・ディレイだ。機能の面では、従来のモデルと同じく、ディレイにコーラス、ヴィブラートを装備し、さまざまな空間的サウンドを作り出せた。また、原音とエフェクト音を別々に出力できるデュアル・アウト仕様なので、広がりのあるディレイ音が簡単に得られるのも特徴だ。また、タイムのつまみを回した時に起きる、ディ

《試奏!》エッジ(U2)をはじめ、トップ・ギタリストの多くが愛用しているアナログ・ディレイの名機。2010年モデルはボディがダイキャスト製になり、さらにコンパクトにもなっている。

機能の面では、従来のモデルと同じく、ディレイにコーラス、ヴィブラートを装備し、さまざまな空間的サウンドを作り出せた。また、原音とエフェクト音を別々に出力できるデュアル・アウト仕様なので、広がりのあるディレイ音が簡単に得られるのも特徴だ。また、タイムのつまみを回した時に起きる、ディ



▲コーラス/ヴィブラートの切り替えがロータリー式になり、使いやすさがアップ

エマ ReezaFRATtitz 2 ¥31,290



まっている。気になったのは、真空管の特性をシミュレートしたバイアスというコントロールだ。このバイアスで、一般的なトーン・コントロールとは、ひと味違った、エッジを加えるような効果が得られた。ローとハイのつまみも適度な効き具合があって、使いやすい。ゲインを絞ればオーバードライブ的なサウンドも得られるし、軽く歪ませたアンプにつないでもいいだろう。全体的にクセがない、使いやすいディストーションだ。

《試奏!》続いてチェックしたのは、デンマークのエフェクター、エマの2モデルだ。このエマは、t.c.エレクトロニクスでペダルを製作していたJan Behnche氏が立ち上げたメーカーだ。まずは、すでに好評を得ていたリーザフラッツジッツの2代目モデルから鳴らしてみた。

フラットなセッティングでいい感じのディストーションが得られ、いい意味で音作りの幅がそれほど広くなく、いい具合の歪みの幅に収



▲中央のつまみが、“真空管のニュアンスを変える”的な効果を生むバイアスだ

■問い合わせ:日本エレクトロ・ハーモニクス(株)(http://www.electroharmonix.co.jp)

ロジャー・メイヤー Voodoo-Bass 2 ¥37,800



スにも対応しているのも特徴だ。弾いてみると、ゲインの設定幅が広く、クランチからハイ・ゲインまで自在にコントロールすることができた。イコライザーで、エッジを効かせた、ザクザクとしたリフ・サウンドからマイルドでウォームな歪みまでカバーできる。

《試奏!》続いては、ロジャー・メイヤーのVoodoo-Bass 2をチェックしてみた。

こちらはギター信号をハイとローにわけ、それぞれ独立したゲインとトーン・コントロールで調整し、ミックスすることで、よりレンジの広い音作りができるディストーションだ。ラウド系のドロップ・チューニングしたギターにも最適な歪みが得られるだけでなく、ペー



▲本体横には、ハイとローのミックス・バランスのつまみが備えられている

maker's voice

音作りにこだわるギタリストにオススメです

人気のVoodoo-Bassが、さらに進化しました。高域と低域で違う回路を搭載し、それらをミックスして今まで以上に幅広い音作りが可

能です。高域はVoodoo-Bassと同じ回路で、低域はさらに低域を強調した新回路です。音作りにこだわるプレイヤーにオススメです。

エマ PisdIYAUwot ¥31,290



実際のサウンドも、リーザフラッツジッツのバイアス・つまみがアンプの中身を変えている感じに対して、こちらのミッドはアンプの最後に搭載されているミッドを変えている感じを受けた。

激歪みではなくパワフルな歪みを求めるギタリストにオススメ。

《試奏!》ピスジヤウワットと名付けられたディストーション。基本的なサウンド・キャラクターは、左のリーザと同じ感じだが、こちらは寄りメタルにターゲットを絞っているとのこと。また、こちらにはミッドというコントロールが搭載され、ドンシャリからミッド・ブースト系まで対応できるのもポイントだ。



▲レベル、ゲインと3バンドのトーンを装備。ドクロの眼の中にLEDが入っている!

maker's voice

存在感ある歪みを持ったディストーションです

エマはデンマークの小さなガレージ・メーカーです。音へのこだわりは人一倍強く、どのモデルも大変ご好評をいただいています。

リーザフラッツジッツ2は真空管の特性を正確に再現した大人気のディストーションです。荒々しく

噛み付くようなサウンドは、バンドで使用しても他の音に負けることなく、ギターを音を激しく主張します。ピスジヤウワットは、メタルのためのディストーションです。リズムでもリードでも、もたつくことなくクリアに抜けパワフルな歪みです。